



文部科学省 科学技術政策研究所

政策研ニユース

2

National Institute of Science and Technology Policy **NO.244**



ナイスステップな研究者 2008 文部科学大臣表敬

目次

I. 海外事情	P2
米国・カナダ出張報告	
	企画課国際研究協力官 三森八重子
II. 最近の動き	P5



I. 海外事情

米国・カナダ出張報告

企画課国際研究協力官 三森八重子

(1) アメリカ科学振興協会における日中韓シンポジウム開催

文部科学省・科学技術政策研究所（NISTEP）では、中国と韓国にある2つのカウンターパート研究所と協力し、米国の最大級の学会であるアメリカ科学振興協会（AAAS＝「サイエンス」誌の発行元でもある）の2009年の年次大会で、日中韓シンポジウムを開催した。同年次大会は今年も米国シカゴで開催され、1万人以上の科学関係の関係者が参加した。

NISTEPが主催して、日中韓シンポジウムをAAASで開催するのは2007年に続き2度目となる。

今年の日中韓シンポジウムは「East Asian Science Policies and New Global Realities」（東アジアの科学政策と、世界が直面するあらたな現実）と題して行われ、NISTEPとMOUを結び協力プログラムを推進している、中国と韓国の3つの研究所（韓国科学技術政策研究院（STEPI）、と韓国科学技術評価・計画院（KISTEP）、中国科学院政策管理研究所（IPM, CAS））の所長3人をスピーカーとして招聘した。NISTEPからは和田智明所長及び奥和田久美・科学技術動向研究センター長がスピーカーとして参加した。

シンポジウムでは、冒頭、モデレーターを務めたクリス・ヒル・ジョージメイソン大学教授から今回の日中韓シンポジウムの開催趣旨の説明があったあと、NISTEPの和田智明所長から「Recent Developments in S&T Policies After the Lost Decade」と題するプレゼンがあった。和田所長は今後の方向性として、基礎研究、国際的な競争力を持つ技術の開発、グローバルな課題への取り組みの3つが重要であると締めくくった。

次に韓国の科学技術評価・計画院（KISTEP）の所長を務めるDr. June Seung Leeから、「Korea's Science and Technology Policy」と題するプレゼンがあり、李明博大統領が打ち出した新たな科学技術戦略「577戦略」について説明があった。

3番手として、奥和田久美・NISTEP科学技術動向研究センター長からは「Sustainable Development through Scientific and Technological Innovation」と題するプレゼンがあり、NISTEPが長年にわたり継続して行っている技術予測研究の成果と、科学技術政策立案に対するインパクトについて

説明が行われた。

その後、中国を代表して中国科学院政策管理研究所（IPM, CAS）の所長を務める Dr. Mu Rongping から「Innovative Policy for Sustainable Development in China」と題するプレゼンがあり、中国がすすめている持続可能な成長のためのイノベーション戦略について説明があった。

最後の締めくくりとして、韓国科学技術政策研究院（STEPI）の Dr. SukJoon Kim 所長から、「Strategy for Low-Carbon Green Growth in Korea」と題するプレゼンが行われ、韓国の李明博大統領が新たに打ち出した“Green Growth Strategy”（成長と環境保全を同時に実現する戦略）と“Green New Deal”（グリーンエコノミーにより、経済成長と雇用創出を実現する戦略）について説明があった。

5人のスピーカーによる発表に引き続き会場からの質問に答える形でディスカッションを行った。会場を埋めた60人ほどの聴衆から活発な質問が飛び交い、熱気のあるディスカッションが行われた。

主な質問項目は以下のとおり

- * 韓国が進めている Green New Deal について、ベンチャー創出を狙っているのか（韓国から、6つの財閥がこの分野で総額56億ドルの投資を約束したことが示された）
- * 産官学の連携の現在の状況と今後の方向性（韓国から、2000年を境目に、政府主導から大学や産業界主導へと、コラボレーションの主体が変わったと説明があった。中国では、従来政府系研究所が研究の中心であるが、大学への投資や産官学のコラボレーションにここ数年増加傾向が見られるとの説明があった）
- * 科学技術の評価の動向（韓国では STEPI、KISTEP などの研究所が技術評価、フォーサイト研究を行っているとの説明があった。中国では政府レベルの技術評価はなく、研究者が行っているものが一部あるとの説明があった）
- * 現在の金融危機に科学技術を使ってどう対応するのか（韓国から、雇用の創出、競争力の強化の2つの目標を持って対処しているとの説明があった。中国から、雇用の創出、イノベーション、人材育成の3つの目標があるが、人材の育成が一番重要であるとの説明があった）

(2) カナダにおける科学技術政策の動向の調査（和田所長、三森国際研究協力官、白川科学技術動向研究センター上席研究官）

AAAS におけるシンポジウムの開催後、カナダを訪問した。

*Waterloo 大学訪問 2009 年 2 月 16 日午前

Waterloo 大学がすすめている Cooperative プログラムについて話を伺った。同大学の Cooperative プログラムは世界最大級のプログラムで現在 1 万 5 千人の学生が学んでいる。学生は 4 ヶ月ごとに、企業での研修と、大学での授業を交互に受け、5 年をかけて卒業する。24 ヶ月間の実務経験を踏まえて大学を卒業するため、企業からの引きが多く、この不況下、98%を越える就職率を誇るという。学生は給料をもらい、実務経験を身に着けることができる。一方企業は優秀な人材を得られ、大学は企業とのネットワークを広げることが出来る。win-win-win のプログラムであると大学側は説明する。アクセレレーター・センター（インキュベーターセンター）での講和のあと、最先端の設備を備えた 3 つのラボを見学した。

*Guelph 大学訪問 2009 年 2 月 16 日午後

Guelph 大学は農業やライフサイエンス研究などで著名なカナダの大学であるが、昨年秋から、カナダで初の「ナノサイエンス・コース」（4 年生の学位プログラム）を立ち上げた。このコースは、コンピュータ、マイクロエレクトロニクス、バイオテクノロジー、エネルギー、毒性学、医学などナノサイエンスが関与するあらゆる分野をカバーするもの。同コースに関する講和に前後して、同大学のナノ研究ラボの誇る、原子間力顕微鏡（AFM）や走査型トンネル顕微鏡（STM）などの最先端の機器が溢れる研究室を多数見学させていただいた。

*オタワにおける意見交換 2009 年 2 月 17 日昼

オタワで、Dr. Tomas Brzustowski および Dr. Paul Dufour と意見交換をおこなった。

会談の概要は以下のとおり。

「カナダと日本の教育システムの違い」（日本は全国一律、カナダは州ごとに異なる。ただし研究資金は連邦政府から主に拠出される）「カナダと米国との競合、それに対する対策」（米国とカナダは国境を境とするため様々な局面で競合する。カナダは、給料、インフラ、研究資金などで米国に劣る。生活の質はカナダの方がよいのでそれをアピールする。）「基礎研究と商用化のバランス」（カナダの基礎研究はつよい。とりわけ臨床研究、宇宙、地理学、地球環境研究が強い。産業界の R&D 投資をいかに増やすかが課題）「金融危機下の S&T 政策」（カナダは天然資源が豊富で、これまでは天然資源からの利益を R&D へ投資してきた。今後天然資源は増えない。今後は基礎研究を充実させ、イノベーションを創出させることが重要だ）

*オタワにおけるカナダ産業省訪問 2009 年 2 月 17 日 14 : 30 - 15 : 30

カナダ産業省を訪問し、Dr. Howard Alper 科学技術イノベーション会議議長および Mr. Iain

Stewart 産業省副次官補・科学イノベーションセクター担当と意見交換をおこなった。

会談の概要は以下のとおり。

「カナダの基礎研究の活性化について」(Stewart 副次官補：カナダは基礎研究が重要でないとはしてない。長期的なイノベーションの創出、TFPの増加が必要だ)(Alper 議長：産業界のR&D投資の少なさがカナダの問題であり、これをいかに引き出すかが課題である。大学は経済発展の主役にはなれない。)
「金融危機の下のS&T政策」(Stewart 副次官補：来年度予算が発表され、科学技術関連への51億ドルの新規の支出を決めた。大学のインフラや機器の整備、北極圏研究、ヘルスIT、スカラーシップやインターンシップの資金などが含まれる)(Alper 議長：難しい問題だ。企業のR&D投資が減少しないようにすることが必要だ。)

所感：

AAAS：2回目となるAAAS年次大会における日中韓シンポジウムは、CASTEDの出席が急遽キャンセルになるなどのハプニングがあったが、KISTEP、STEPI、CASIPMから所長がスピーカとして駆けつけてくださり、熱心な聴衆を得て、大変有意義な議論ができた。シンポジウムの終了後、AAASの国際部長を務めるVaughan Turekian氏から、是非(2007年の日中韓シンポジウムの際と同様に)今回のシンポジウムの報告書を作成してAAAS事務局へ送付してほしいとの依頼をうけた。

カナダ：

NISTEPとカナダはこれまで、本格的な交流がなかったが、今回カナダを訪問し、カナダの研究のレベルの高さを改めて認識した。カナダ側からは日本とのコラボレーションに興味を示された。クラスター訪問では今回訪問したWaterloo及びGuelphとも最先端の機器、設備を備え、カナダの研究レベルの高さを改めて痛感した。Cooperativeプログラムは大変興味深いプログラムで、日本での導入も(日本企業も学生受け入れを行っているようである)有意義なものではないかとの印象を持った。

産業省訪問ではカナダの最新の政策動向が得られた。



II. 最近の動き

○ 講演会・セミナー

- ・ 1/9 「中国の科学技術人材政策」
Xianfeng CHEN：中国科学院人事局局長助理
- ・ 1/23 「2020年の社会における技術予測調査の結果」
Anny Wong：RAND Corp. 博士

○ナイスステップな研究者の塩谷文部科学大臣表敬および記念品贈呈について

平成 21 年 1 月 26 日（月）、先日選定しました「科学技術への顕著な貢献 2008（ナイスステップな）研究者」の方々 10 名が、塩谷文部科学大臣、山内文部科学副大臣を表敬訪問しました。

また、大臣表敬訪問に先立ち、所長室において記念品の贈呈と意見交換を行いました。

科学技術政策研究所では、この春に今回選定した方々によるシンポジウムを開催する予定です。



（後列左より）桑原総務研究官、坂田文部科学審議官、新井教授、米田教授、金正セクションリーダー、長谷川セクションリーダー、若山チームリーダー、山口教授、和田所長

（前列左より）嶋田教授、河野教授、塩谷文部科学大臣、山内文部科学副大臣、三浦教授、細野教授

○新着研究報告・資料

・「科学技術動向 2009 年 1 月号」（1 月 29 日発行）

レポート 1 省エネルギーに寄与する照明の効率化技術

環境・エネルギーユニット 武井 義久

レポート 2 火山噴火予知研究の現状と今後の課題

客員研究官 藤田 英輔



編集・発行

文部科学省科学技術政策研究所広報委員会（政策研ニュース担当：企画課）

〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3-2-2 中央合同庁舎第 7 号館東館 16 階

電話：03(3581)2466 FAX：03(3503)3996

ホームページ URL：<http://www.nistep.go.jp> E-mail：news@nistep.go.jp

2009 年 2 月号 No.244（平成 21 年 2 月 1 日発行）